

編集部便り

「電力の鬼」松永安左衛門の幻の逸品を発見！

研究者の心構えについての兄弟書が電中研と当社に共存



電力中央研究所 狛江研究所の書

当社技術開発本部長室には、電力の鬼、松永安左衛門の直筆の書が掲げられている。日付は昭和44年(1969年)。松永翁93才のときのものである。

安左衛門は、明治8(1875)年12月1日、長崎県壱岐島に生まれた。呉服店、日本銀行など数々の業界を渡り歩いた後、終戦後の電力再編成時に、周囲からの猛反発を受けながらも発電から配電まで一括して担当する9電力会社に分割するという、現在の電力供給体制の根本を作り上げた偉人である。また、電力事業への情熱とそれに基づく言動によって、「電力の鬼」という異名が与えられたことでも有名である。

実はこれとほぼ同様の内容の書が、今回巻頭言を執筆していただいた佐藤太英理事長の電力中央研究所にも残っている。これには昭和32年(1957年)の日付が残っており、さしずめ当社版の兄貴分というところであろう。

電中研の書は、狛江市にある電中研本館が竣工した際、当時の理事長であった松永翁が職員のために揮毫したものがある。これに対し当社の書は、松永翁が当時の技術研究所を視察された際に、即興で書かれたものといわれている。草書のために、書かれている内容について、詳細までは分からないままであったが、電気保安協会全国連絡会議専務理事の杉原誠氏によって解説していただいた結果、この書にかかっている主旨は「利己的な人間性は、過去の哲人と比べてみても何の進歩も見られない。研究員には

内面的な人間性の練磨が必要である」と判明。研究開発に携わっていると、どうしてもお客さまとの接触が少なくなり、自分の利益を最優先に考えがちになってしまうが、松永翁はこれを半世紀前に見ぬき警告しているのである。お客さまに愛される良き研究者になるには、良き人間性を持たねばならないという翁の声が天から聞こえてくるようである。

電力業界では本年3月21日から電力の小売部分自由化が始まっており、松永安左衛門が電力の鬼と呼ばれた電力再編成時代に匹敵する変換期に突入している。その中で、我々はエネルギー産業に携わる者として、原点に立ち返って考え、行動することが必要ではないだろうか。その意味においても松永翁の書の持つ意味は大きい。

年次	年令	事歴
明治 8年12月	0	長崎県壱岐郡石田村に第2代松永安左衛門の長男として誕生
明治31年~40年	22~31	慶応義塾を中退し、三井呉服店に就職。日本銀行を経て自営業を営むが、持株の大暴落により無一文となり、自宅は火災で消失
大正 6年	41	博多商業会議所会頭に就任、4月衆議院議員に当選
昭和 3年 5月	52	東邦電力社長に就任
昭和17年 4月	66	9配電会社発足、電力事業経営より引退し、埼玉柳瀬山荘に隠栖
昭和24年11月	73	電気事業再編成委員長に就任
昭和26年 5月	75	公益委とGHQとの合意により9電力会社発足
昭和28年 4月	77	電力中央研究所理事長に就任
昭和30年 1月	79	電力設備近代化調査委員会設立、委員長に就任
昭和32年10月	81	電力中央研究所本館竣工時に、今回紹介の書を揮毫
昭和39年 4月	88	勲一等瑞宝賞授与、授賞式には欠席
昭和44年 7月	93	当社に今回紹介の書を揮毫
昭和46年6月16日	95	死去。享年97才、本人の遺志により叙勲を辞退。葬儀、法号なし

参考文献：藤村哲夫著「電力の鬼・松永安左衛門 その生涯と業績」



仏の松永安左衛門氏



中部電力(株)技術開発本部の書

私はかつて産業研究は智徳の練磨であり是を以て社会に貢献すべきである事を悟りました。科学の進歩は累積と推理に由り無限の発達を遂げる性質のもので、尽きる処を知りません。乍併、利己的な人間性は社会的に猶ほ一千年前の哲人に比し何程の進境を示して居りません。研究調査に關する人々は能く之を知り内面的に人間性の練磨を併せ続けられん事を祈つて止まない次第であります。一九六九年七月 松永安左衛門